

様式第5号

出張調査報告書

平成28年11月30日

松伏町議会議長 佐藤永子様

会派名 新自民クラブ

代表者氏名 莊子敏一



下記のとおり先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	平成28年11月13日から平成28年11月16日
2 視 察 地	(1) 海士町町役場 (2) 海士町学習センター (3) 海士町 (株) 巡りの輪
3 視 察 目 的	(1) 若者のIターン、Uターン施策 (2) 海士町等が取り組む高校魅力化プロジェクト (3) 島から未来を作る ある若者の挑戦
4 視 察 者 氏 名	莊子敏一
5 視 察 結 果	行程、視察結果は別紙のとおり

行程表

11月13日(日)	
09:30	松伏町～北越谷～北千住～上野～東京
11:30	東京発博多行き のぞみ29号
14:55	岡山駅着
15:04	岡山発出雲行き 特急やくも17号
17:45	松江駅着 松江市グリーンリッチホテル泊

11月14日(月)	
07:55	松江駅発 一畑バス
09:30	七類港発 芝浦港行き 隠岐フェリー「くにが」
12:40	芝浦港着(海士町)
	行政視察 若者のIターン・Uターン施策
15:30	施設の見学
	CAS凍結センター、中央図書館、町営住宅、隠岐潮風ファーム
	岩ガキ生産組合
17:30	海士町 島宿 但馬屋泊

11月15日(火)	
06:00	海士町役場産業創出課 農産物集荷作業同行
10:00	学習センター
	高校魅力化プロジェクト
12:00	(株)巡りの輪
	島から未来を作る ある若者の挑戦
15:15	芝浦港発 七類港行き 隠岐フェリー「おき」
17:55	七類港着
18:03	七類港発 一畑バス
18:43	松江駅着
18:51	松江駅発東京行き ブルートレイン・サンライズ出雲

11月16日(水)	
07:08	東京駅着
09:00	東京～上野～北千住～北越谷～松伏

海士町 活動報告書

1. 若者のIターン、Uターン施策

- 日 時 平成 28 年 11 月 14 日 (月)
- 会 場 マリンポートホテル海士
- 対応者 海士町 産業創出課長 大江和彦氏
- 考 察 海士町にIターン、Uターンする若者には、町役場や関連団体に雇用されるのではなく、島にある資源を生かして企業出来る環境があることがわかった。その財源は離党復興債による補助金であり、人口 2000 人程度の島が年間 60 数億円使えることにある。担当者の大江氏が語った次の言葉が印象的だった。『島で何かやりたいとき、お金は何とかあります。ただ、大使を持った若者が少ないのが課題です。』海士町は若者の夢を実現するチャンスを用意して、待っています。

2. 施設の見学

- 日 時 平成 28 年 11 月 14 日 (月)
- 会 場 CAS 凍結センター、中央図書館、町営住宅、隠岐潮風ファーム
岩ガキ生産組合
- 対応者 海士町 産業創出課職員
- 考 察 海士町町役場が自ら整備した施設と、Iターン・Uターン者が起業した、公設民営の施設を見学した。
 - ① CAS 冷凍センター 海士町の実産物を、細胞を壊さずに冷凍する技術で、とれたての鮮度のまま全国に配送することが出来るようになった。これにより、島根県の市場で買いたたかれることなく、新たな場販路が生まれた。
 - ② 中央図書館 “図書館のない島” というハンディキャップを逆に活かし、島の学校（保育園～高校）を中心に地区公民館や港など人が集まる既存の公共施設 12カ所をネットワーク化した中心施設。2000人の島に、都市部の図書館に負けない設備が整っています。
 - ③ 町営住宅 Iターン・Uターンの若者向けに町が用意しており、様々な間取りの住宅が 200棟以上用意されています。また、近年、国土交通省補助事業：地域住宅モデル普及推進事業を活用し生活体験施設も整備されています。
 - ④ 潮風ファーム 隠岐牛を徳経の四方に出荷するために起業した牧場。本は土建会社だったが、公設民営で始まった。
 - ⑤ 岩ガキ生産組合 地域の女性の就労の場を提供する目的で海士町が作った岩ガキ加工場。名目は地域の産業研修館として補助金を引っ張ってきた施設。年 2 階の体験教室を開き、他の日は生産工場で稼働している。
 - ⑥ ナマコ加工場 中国ではナマコを食べることに着目し、島にごろごろしているナマコを加工する工場。Iターンの若者が起業し、公設民営で工場を整備した。総工費 7000 万円。

⑦ ふくぎ茶 島のあちこちに自生し、昔から飲まれていたハーブティーを製品化し、障害者の雇用につなげた施設。やはり1ターンの若者が始めた。島の船着き場では、人気がありすぎて欠品が続いていた。

3. 農産物集荷作業同行

■ 日 時 平成28年11月15日(火)

■ 会 場 地元農家

■ 応対者 海士町 産業創出課職員

■ 考 察 高齢化が進み、農産物を島の船着き場にある直売者まで持って来られない農家の手助けで、町の職員が朝6時から集荷～陳列をする作業を視察した。「この街が好きだから、交代でやっています。」就業時間前のボランティアですが、島を支える職員の神髄を感じました。

4. 高校魅力化プロジェクト

■ 日 時 平成28年11月15日(火)

■ 会 場 隠岐国学習センター

■ 応対者 高橋靖乃

■ 考 察 離島には塾や予備校といった選択肢が少ないことから、進学に対して不利になるのではないかとする発想から、公営の学習術として整備されました。隠岐国学習センターは、いろいろな学力の生徒をサポートし、進路実現を支援するために設立されました。島の高校生3学年あわせて約130名が通っており、高校と連携して考えられた、ひとりひとりの進度にあわせたカリキュラムで受験に対応しています。具体的には、AO入試に的を絞り、論文・面接などに力を入れています。都会の有名私立大学に入学の実績を残しています。指導する講師陣も、東進スクールに匹敵する実績のある人を揃えているのには驚きです。

5. 島から未来を作る

■ 日 時 平成28年11月15日(火)

■ 会 場 (株)巡りの輪

■ 応対者 代表取締役 安倍裕志氏

■ 考 察 海士町は人材の宝庫です。その一人。巡りの輪の安倍さんと面談しました。安倍さんは京都大学を出てトヨタ自動車を経て海士町に移住しました。現在は、ネットデパートを運営する傍ら、教育委員や海士町創生総合戦略の策定委員を務めています。海士町の1ターンのさきがけの人でもあります。海士町の様々な施策を支えているのは、高学歴で大志を持っている若者とその若者を活用する島の風土でした。